**報道資料**

**TBSテレビ総務局広報部**
03-3746-1111
2016 **年** 1 **月** 4 **日**

# 2016 年 武田社長新年挨拶

1 月 4 日(月)午後 3 時から、放送センターA スタジオにて、「2016 年新春パーティー」が開催され、武田社長が以下のような新年の挨拶を行いました。

明けましておめでとうございます。年末年始の番組に携わった皆様方は大変お疲れ様でした。お休みを取れた皆さんは家族サービスなどで、これもまたお疲れ様でした。
年末年始番組の視聴率については、まだまだ課題が多いと感じています。皆様ご承知の通り、TBS はテレビ放送を開始して 60 周年です。昨年を振り返ると、周年番組として『天皇の料理番』『レッドクロス』など大変質の高いと評価される番組を放送してきました。さらに日曜劇場『下町ロケット』が民放レギュラードラマで昨年の年間最高平均視聴率を獲得し、10 月改編で 2 時間化した『モニタリング』が早々に結果を出してくれ、バラエティ番組も徐々に上昇してきています。そうした中、JNN 各局からは大変嬉しい報告が届いています。まず MBC は 12 月月間 3 冠でした。RBC も月間 2 冠、TUT は開局以来初の月間 2 冠です。さらに MBS は 12 月の第 3 週にノンプライムも入れて週間 4 冠を獲得しました。この週は HBC、IBC も GP 帯 2 冠です。JNN 系列は確実に上昇しています。
TBS は若干出遅れていますが、一方で成果も収めました。8 月に行われるリオ五輪民放放送種目の抽選会で、女子マラソンのほか重要な種目を多数獲得しました。この強運を実力に変える年だと思っています。
ある偉い人が言いました。「頭の良い人、強い人が偉いのではなく、変化に対応できる人が、本当に偉い人なんだ」と。放送業界においては、ネットフリックスが昨年日本でサービスを開始しました。Hulu も日テレ系で配信しています。TBS を含む民放 5 局は TVer という見逃し視聴配信を開始しました。動画配信サービスが多様化して、我々が作るコンテンツが様々な形で視聴されることになり、ますます視聴者や広告主のテレビ番組に関する評価が変わってくるでしょう。
今年いただいた年賀メールの一つに「アメリカのメディアのありようが変わっていくことを実感した。怖くもあり楽しみでもある」と書いてありました。ますます放送業界は変化していくだろうと思っています。変化に対応できる者が勝ち残っていくという時代が、今来ています。
3 年半前に、民放と TBS に関するブランドイメージについて社員 1100 人以上が答えた一斉アンケート調査をしました。私は今でもそれを持ち歩いています。それには TBS に対する社員の評価が事細かに記されています。この正月にそれを読み返しました。この 3 年半で解決しているものもあります。あるいは悪くなっているところもあるかもしれないという目で読んでみました。悪いところは一つ一つ改善し、良いところを伸ばしていくことで、TBS グループは一歩一歩前進していきたいと強く思いました。

東京オリンピックまで５年を切りました。「未来へつなぐ。From TBS」の真価が問われる年でもあります。現在、TBS テレビには間違いなく上昇の兆しが出てきております。これは私の勘違いではありません。こういう時こそ、自分の足がしっかり地に着いているかを常に確認しながら、一歩一歩着実に前進していこうと考えています。後悔のない一年にしましょう！一年間、ともに頑張って TBS グループを上昇させましょう！

以上